

丹波縄文の森塾 活動報告

令和7年7月26日（土） 晴



縄文土器（実物）



縄文土器づくり（1）



縄文土器づくり（2）



乾燥中の土器



滋賀県から二人の先生を招いて縄文土器づくりをおこないました。はじめに南山大学の鈴木康二先生による講義「縄文時代と縄文土器について」を聞き、縄文時代の生活や発掘された土器について詳しく教えていただきました。およそ5000年前の地層から発掘された本物の縄文土器も見せてもらいました。実際に触ってみて、どんなデザイン、装飾がされているのか、また、どんな匂いがするのかも確認できました。5000年前の人々の息遣いが感じられました。

土器づくりは、陶芸家の宮本ルリ子先生（滋賀県立陶芸の森 世界にひとつの宝物づくり実行委員会）に教えていただきました。ハウノキの葉を下に敷いて土器を作りました。ハウノキは、丹波の森公苑の裏山にある木で、別名ハウガシワといわれ長さ25～30cmほどもある大きな葉が特徴です。ハウノキの語源は、大きな葉で食べ物などを「包む（ほう）」ことから「ハウノキ」になったそうです。縄文時代には、縄文土器の周りで、ハウノキの葉っぱで包んだ料理を楽しんでいたのかもしれない。



きょうの昼食は、ハヤシライスとフルーツポンチ。フルーツポンチには、サポーターからいただいたスイカの角切りが入っていました。きょうのご飯もおいしくいただきました。



昼食後、若者応援団を通じて、丸中製菓様とケーニヒスクローネ様からいただいたお菓子（ドーナツとパイ）の大抽選会をおこないました。暑い中でしたが昼の自由時間には、バドミントンやサッカー、虫とりを楽しみました。

午後は、土器に装飾をほどこし完成させました。完成した土器は、乾燥させるため倉庫に移動。11月23日、24日に野焼きをする予定です。どんな土器が焼き上がるか楽しみです。

夏休みが、始まったばかりですが、楽しく充実した夏を過ごしてください。